

込める行為は、犯罪者を罰するとき以外、やってはいけない行為です。最近では新型コロナウイルスに感染した方が、数週間にわたりクルーズ船に閉じ込められましたが、あの様子を思い出すと、また、都市封鎖された欧米のテレビ映像を観るたびに“移動”という尊厳を思い出します。

認知症の人を施設に閉じ込めたままの施設がまだたくさんあります。3重、4重に鍵をかけるなど、さながら刑務所です。悲しいことに、それがいい介護だと思っている施設もあります。介護者が尊厳を奪い、認知症を悪化させていることに気づいていません。

第二の尊厳とは、「口から食べられること」です。一度、誤嚥性肺炎を起こしたという理由で、まだ口から食べられる人に食べさせない病院や施設がたくさんあります。誤嚥が怖いという理由で、胃ろうや経鼻栄養（鼻からチューブで栄養を入れる）、高カロリー点滴を勧

められる。胃ろうにしなければ、うちの施設では受け入れません、と脅す……。口から食べないと、一気に身体機能は衰え、認知症が進行します。誤嚥は誰でもします。しかし誤嚥性肺炎は食物誤嚥ではなく夜間睡眠中の不顕性誤嚥で徐々におきます。誤嚥と誤嚥性肺炎は別物です。両者をしっかり区別することが大切です。

私は、「最期まで口から食べる」を積極的に行っていきます。高齢者の在宅医療では美味しいものを食べることを重視すべきです。生きることは、食べることなのですから。

第三の尊厳とは、「トイレで排泄すること」。排尿も排便もトイレするのは、まさに人間の本能です。病状によっては、一時的に尿道から膀胱に管を入れたり、おむつに頼らざるを得ない場合があります。しかし適切な医療・介護があれば、人生の最終段階でもトイレで排泄できます。介護者は、諦めてはいけませ

ん。おむつになった人はみな強い喪失感を感じているはずですよ。

100歳に近い要介護5の認知症の在宅患者さんがおられました。娘さんが病院から連れ帰り、在宅療養しておられました。その人は、亡くなる1時間前まで口からご飯を食べ、お酒を飲み、おむつも最後の1日だけでした。見事な平穏死。ご家族も、私たち在宅スタッフも泣き笑いの旅立ちでした。

移動、食事、排泄……良い介護とは、この3つの尊厳を大切にすることが基本です。看取りの後のご家族もたいへん満足されます。皆さんが望む穏やかな最期（平穏死）は残念ながら、多くの病院では叶えにくいのが現状です。在宅という場がいちばん叶えやすい。在宅介護を安心して行うためにも、最低限の医療知識を備えておくことが肝要なのです。

今回は、在宅介護と保険制度のお話をします。

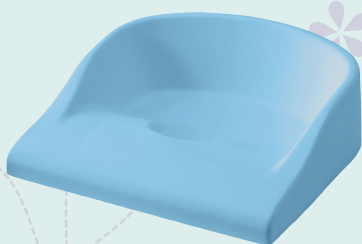


笑顔と笑顔でよりそうこころ

国内最大のウレタンフォームメーカー

「イノアック」グループより、

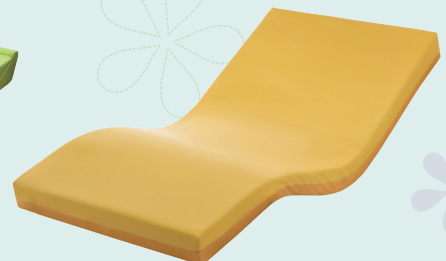
“笑顔と笑顔でよりそう福祉用具”をお届けします。



立ち上がりやすい車いすクッション
[Swimo(スイモ) コーティングタイプ]



オールウレタンの安心、低床ベッド
[おふとんベッドII]



両面使えるウレタンマットレス
[リバーシブルPROマットレス プレミアム]

INOAC

株式会社イノアックリビング

〒141-0032 東京都品川区大崎2丁目9番3号 大崎ウエストシティビル

TEL:0120-790-593 FAX:03-3492-9215 URL:www.inoac.co.jp/living/